

# 自衛艦衝突「釣り船に原因」

みの回避措置が遅れた点も問題視した。海自艦と小型船の衝突事故は後を絶たず、専門家は「官民双方が衝突回避に向けた取り組みを徹底させる必要がある」と強調する。

起信号を活用したりして した事故の真相究明は、  
いれば、事故を回避でき 広島地検が進める事件捜  
た可能性がある」とした。 査に委ねられた。

ただ、海上衝突予防法 海自艦を巡っては20  
が定めた「衝突の回避義 08年2月にも、千葉県  
務」の所在は、釣り船の 沖でイージス艦「あたご」  
航跡や両船の位置関係が と小型漁船が衝突、漁船

# 事故回避問われる官民

昨年1月に発生した海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」と釣り船の衝突事故で、運輸安全委員会が9日に公表した報告書は、釣り船の針路変更が原因とする一方、おすす

報告書は主な事故原因特定できなかつたとして  
を「(衝突直前に)釣り船明示しなかつた。釣り船  
が右に針路を変え、おおの針路変更の理由も、船  
すみの船首付近に接近したため「釣り船長が死亡したため「釣り  
たため」と判断。おおすみ場に向かおうとした可能  
についても「より早い段性がある」との表現にと  
階で減速したり、注意喚どめており、2人が死亡

## 運輸安全委報告

# 海自側の対応も問題視

責任は全ての当事者にある」と指摘。「海自側は衝突回避の動作を徹底し、民間の漁船も普段から大型船の特性を理解したうえで操業に臨むことが重要だ」としている。

の2人が行方不明になつた事故が発生。海自は再発防止策を打ち出したが、再び悲劇は起きた。

今回の報告書は「大型船の減速や停止には、時間や距離を要する」と言